

婦人を対象としたスポーツに関する調査研究

若 山 博

I. 緒 言

社会は個人の能力によつて発達し、個人の能力は、社会によつて向上して行くと言ふ相対性を持つて居る。現代の社会は、その内容が複雑多様となり、更に戦後特に女性の社会的地位が著しく向上した。一方スポーツに於いても婦人の進出と共に、学生中心から、一般社会人へと滲透し、その発展には、めざましいものがある。

スポーツは本来、自由解放的な性質を持つて居り、女性がスポーツを行う様になる事は、女性の解放に役立ち、又、女性が解放されれば、スポーツも発達し、加えて女性に対して適正化されて行くと言われて居る。

婦人は、個々の社会人として、生活すると共に、次の世代を背負う子供等を、産み育てると云う大きな使命を持つて居る。明るく健康な家庭生活を営むためには、一家の支えで有る婦人に依存する所が多く、又、その力に待つ事が大きい。

一個の社会人としての向上を目指す時、スポーツの占める役割は見逃せないものが有ると思う。そこで、広く一般社会に於いて、スポーツ発展の母体とも云うべき婦人層について、スポーツの経験、関心、意欲、興味、実態、等について調査し、婦人体育が日常生活へ同化するための、一助ともなればと考え、その調査した結果について、ここに発表し、御批判を賜りたいと思う。

II. 調 査 方 法 (人員, 年令, 学歴)

1.) 調査対象 金沢市婦人学級指導者、及び、一般家庭婦人の二つの婦人層を調査対象として比較検討した。

2.) 方 法 質問紙により行い、別表3の通りで有る。(別表2参照されたい)

3.) 調査期日 金沢市婦人学級指導者は、昭和36年6月22, 23日の両日、石川県石川郡鶴来町、白山公民館に於いて行われた指導者研修会(合宿)の折に調査を行つた。又、一般家庭婦人については、昭和36年7月11日より8月31日迄夏期休暇の期間に帰省した金沢美術工芸大学学生10)名の協力によつて、全国各地の帰省先に於いて、調査を行つた。

表2

調査人員 金沢市婦人学級指導者 82名=N1
一般家庭婦人 446名=N2

問1 スポーツの経験について

| A 行なっていた | N1 | % | N2 | % |
|----------------|----|----|----|-----|
| 運動部で属していた | N1 | 45 | N2 | 255 |
| 同好会に属していた | N1 | 26 | N2 | 128 |
| 地域社会のクラブに属していた | N1 | 2 | N2 | 28 |
| 協会等に属していた | N1 | 2 | N2 | 10 |
| その他 | N1 | 0 | N2 | 9 |
| 無記入 | N1 | 14 | N2 | 63 |

| B 行なっていない理由 | N1 | % | N2 | % |
|-------------|----|----|----|----|
| 好きでない | N1 | 24 | N2 | 54 |
| 時間が足りない | N1 | 51 | N2 | 42 |
| 用具がない | N1 | 2 | N2 | 7 |
| 場所がない | N1 | 1 | N2 | 4 |
| 機会がない | N1 | 1 | N2 | 5 |
| 疲弊するから | N1 | 4 | N2 | 18 |
| 身体が弱くから | N1 | 3 | N2 | 26 |
| その他 | N1 | 1 | N2 | 6 |
| 無記入 | N1 | 0 | N2 | 21 |

婦人を対象としたスポーツに関する調査研究

問3 婦人に一番適していると思われるスポーツの種目名を書いてください。

| 種目 | N1 | % | N2 | % |
|--------|----|----|----|----|
| 陸上 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 水泳 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| バレーボール | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 卓球 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| テニス | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 馬術 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 弓道 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 柔道 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 剣道 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| その他 | 1 | 12 | 9 | 12 |
| 無記入 | 1 | 12 | 9 | 12 |

問4 あなたは休日や余暇を利用して何か運動をやりたいと思いますか。

| A やりたい | N1 | % | N2 | % |
|--------|----|----|----|-----|
| やりたい | N1 | 51 | N2 | 321 |
| 無記入 | N1 | 0 | N2 | 16 |

希望種目

| 希望種目 | N1 | % | N2 | % |
|--------|----|------|----|------|
| 陸上 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 水泳 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| バレーボール | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 卓球 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| テニス | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 馬術 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 弓道 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 柔道 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 剣道 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| その他 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |
| 無記入 | 10 | 19.3 | 15 | 12.6 |

問5 あなたは現在スポーツを行なっていますか。

| A 行なっている | N1 | % | N2 | % |
|----------|----|----|----|----|
| 行なっている | N1 | 13 | N2 | 46 |
| 無記入 | N1 | 13 | N2 | 46 |

行なっている種目名

| 行なっている種目名 | N1 | % | N2 | % |
|-----------|----|-----|----|-----|
| 陸上 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 水泳 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| バレーボール | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 卓球 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| テニス | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 馬術 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 弓道 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 柔道 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 剣道 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| その他 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |
| 無記入 | 1 | 7.7 | 1 | 7.7 |

問2好きなスポーツについて種目を三つ以内挙げてください。

| 好きなスポーツ | N1 | % | N2 | % |
|---------|----|----|----|---|
| 陸上 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 水泳 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| バレーボール | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 卓球 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| テニス | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 馬術 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 弓道 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 柔道 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 剣道 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| その他 | 1 | 10 | 13 | 5 |
| 無記入 | 1 | 10 | 13 | 5 |

4.) 調査人員

金沢市婦人学級指導者 82名
一般家庭婦人 446名

5.) 年 令 金沢市婦人学級指導者は30才より59才で、平均年齢は43.4才であり、一般家庭婦人については、20才より59才迄で、平均年齢は、37.4才であつた。

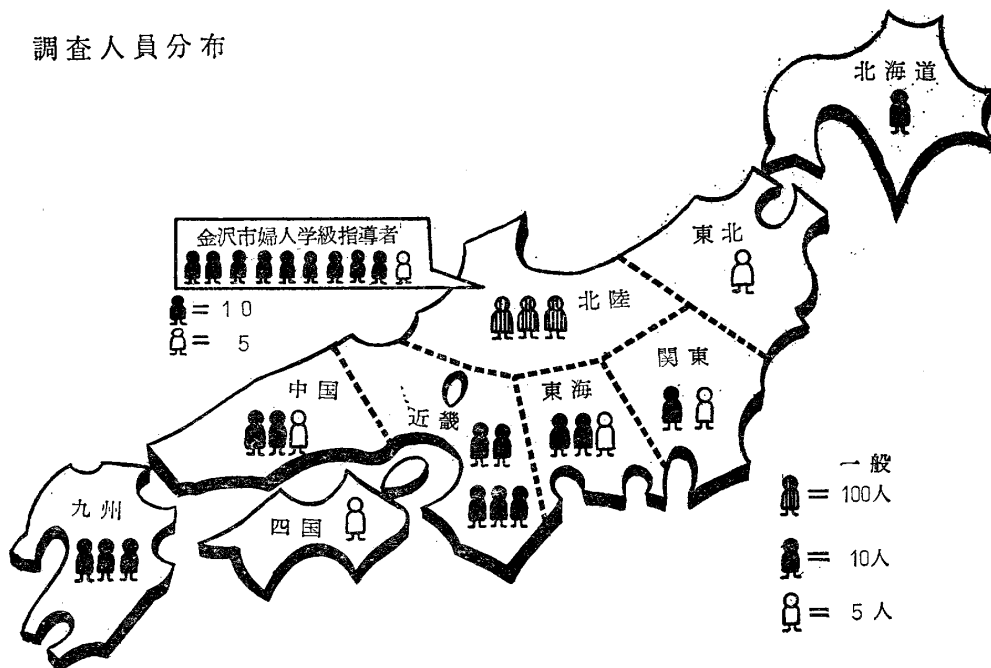
6.) 学歴 最終学歴については、金沢市婦人学級指導者は、旧高等小学校（含新制中学校）17.1%，旧高等女学校（含新制高等学校）80.5%，旧専門学校2.4%であり、一般家庭婦人に於いては、旧高等小学校23.9%，旧高等女学校34.9%，専門学校7.6%，大学3.8%で旧高等女学校（含新制高校）が双方を通じて、多くを占めて居た。

7.) 結婚 大般は既婚者で、未婚者は全体の僅か7%に過ぎなかつた。

8.) 調査地人員及び分布 調査を依頼した学生が大学所在地の関係上、北陸地方が多数を占めて居る結果となつた。尚分布図は表1を参照されたい。

婦人を対象としたスポーツに関する調査研究図表

表1 調査人員分布



Ⅲ. 問題提起

前述の目的のために、次の5項目について問題を提起し、解答を求め、その傾向を見た。

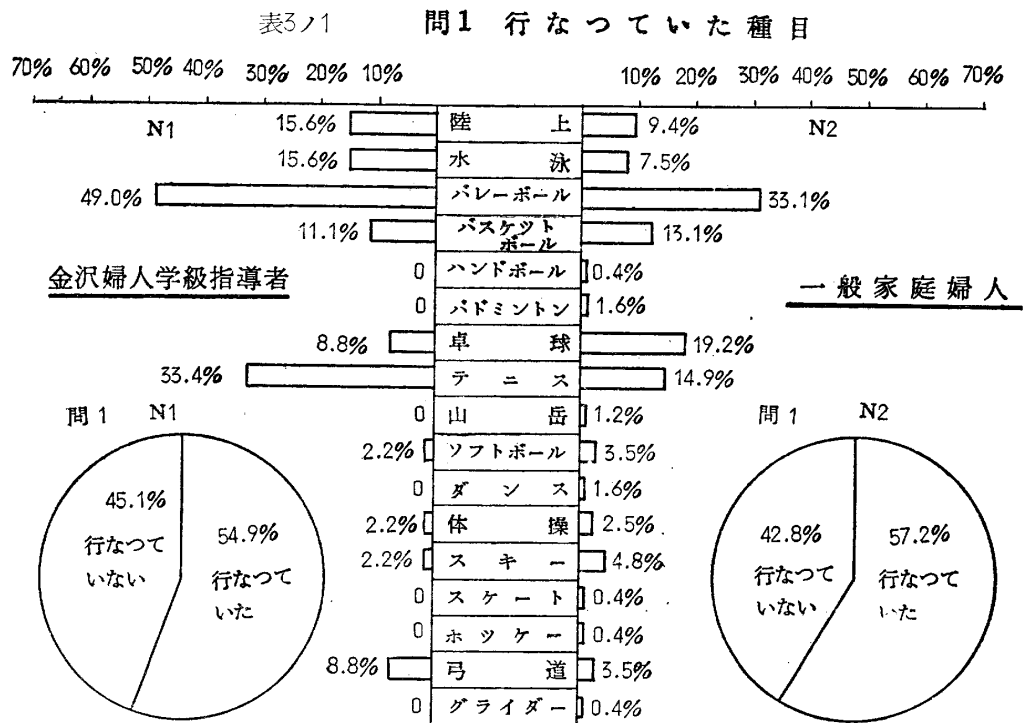
1. スポーツの経験

2. 好きなスポーツの種目
3. 婦人に適して居ると思うスポーツの種目
4. スポーツに対する意欲
5. 実施状況

Ⅳ 結果と考察

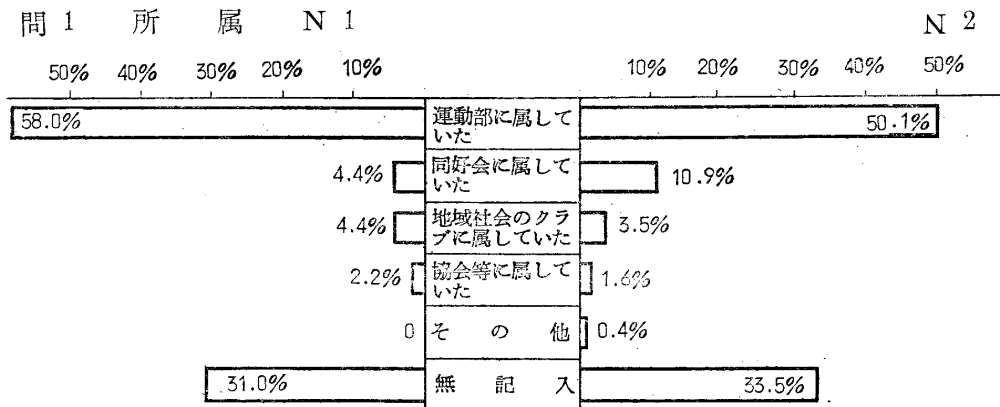
(N1…学級指導者 N2…家庭婦人)

1) スポーツの経験について

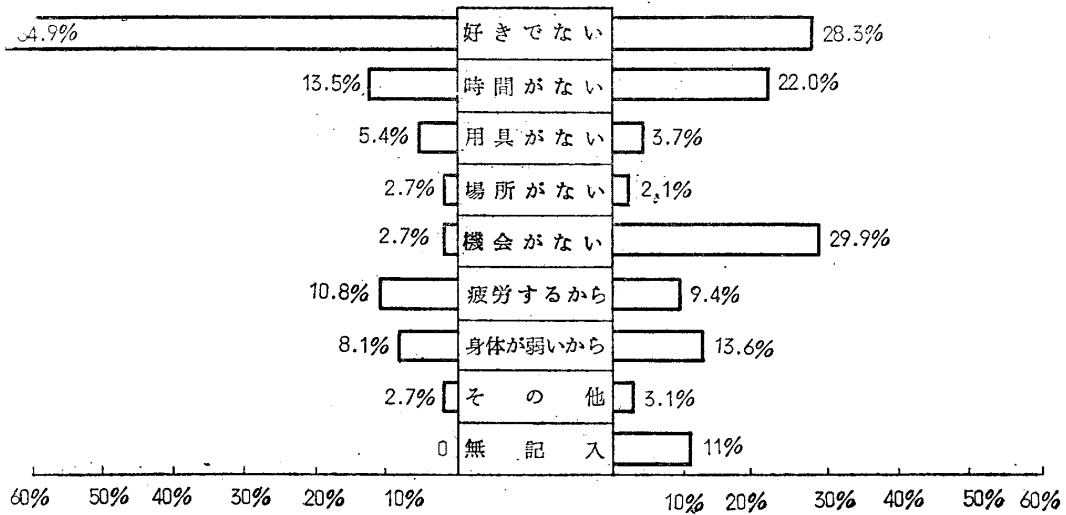


この結果から、スポーツの経験については、円型グラフが示す通り、学級指導者、家庭婦人、共にスポーツ活動を経験したものが、過半数を占めて居る。又、経験した時代については、いずれも、旧高等女学校（含新制高校）が約40%で1位。旧高等小学校、旧高等専門学校、大学の順を示し、会社、その他は、ごく小数で有った。学生時代に於いては、体育と云う時間が設けられ、又、クラブ活動においても、その機会が多く、当然の結果と云える。所属については、運動部に所属して居たと答えた者が、いずれも多くの数を示して居る。行っていた種目は学級指導者については、バレーボール、テニスが多く、家庭婦人では、バレーボール、卓球、テニスの順となつて表われて居た。

表3ノ2



行なわなかった理由



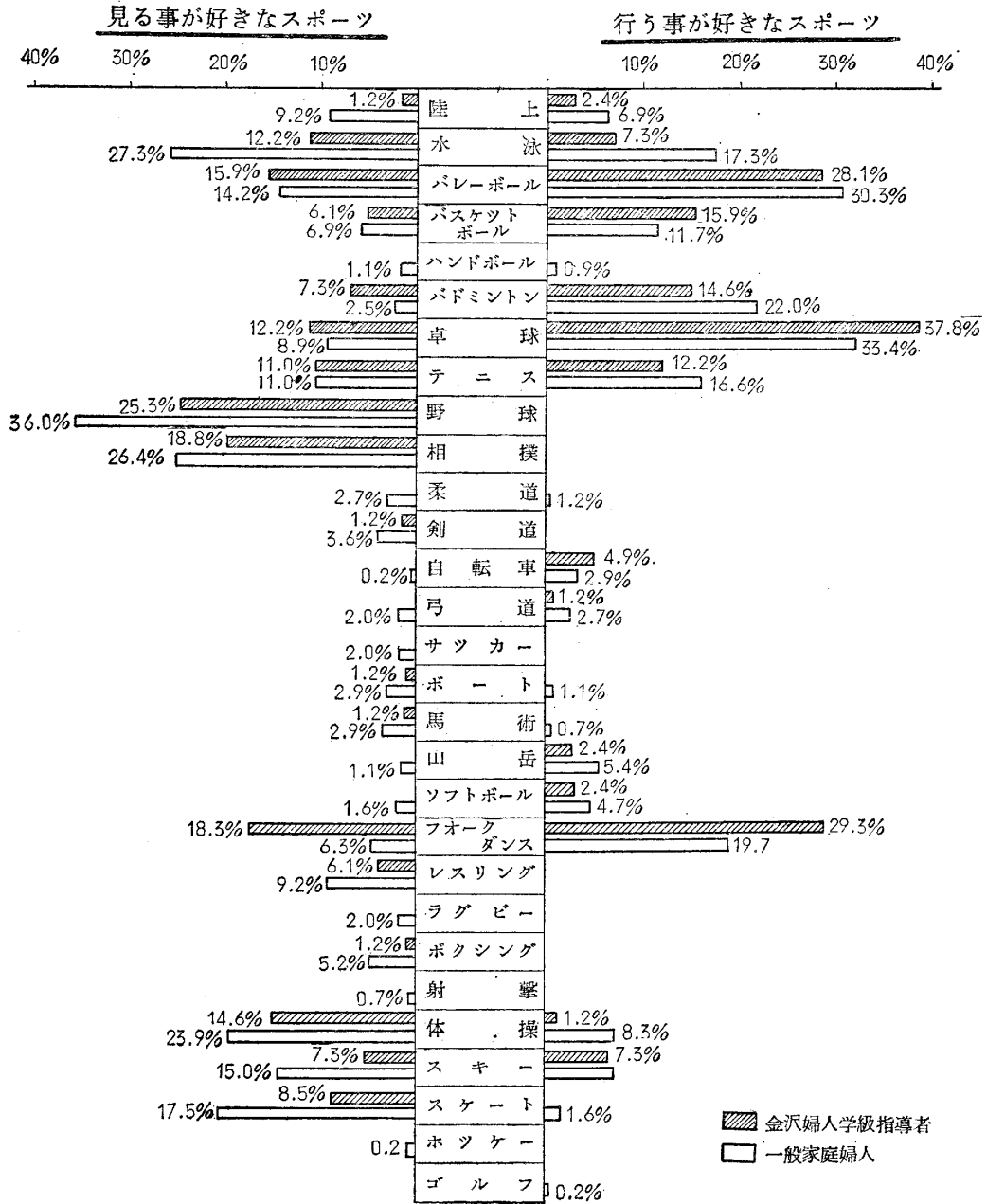
年数においても、上記種目が、他の種目よりも長く平均年数は約7年であり、この種目の経験者は40才台に多く見られた。

行なつて居ない理由としては学級指導者が「好きでない」と答えたものが多数を占め、家庭婦人では「機会がない」、「好きでない」、「時間がない」が各々20%台を示した。これは非常に興味の有る結果だと思う。

2) 好きなスポーツの種目について27種目を列記し、見る事の好きな種目には×印を、行う事が好きな種目には○印を、それぞれ3ツ以上挙げる様に求めた。

(次表を参照されたい。)

表4 問2



i) 見ることが好きなスポーツの種目について

マスコミの発達によつて見る事、聞く事の機会が多くなつた現在に於いて、まず、学級指導者では、野球、相撲、フオークダンス、バレーボールの順で有り、家庭婦人については、野球、水泳、相撲、体操となつて表われ、更に、この種目の愛好者を年令的に見ると、野球は20才代、相撲は40才代に、フオークダンスは50才代に多く占めて居り、30才代は、野球を好むと云う結果が出て居る。

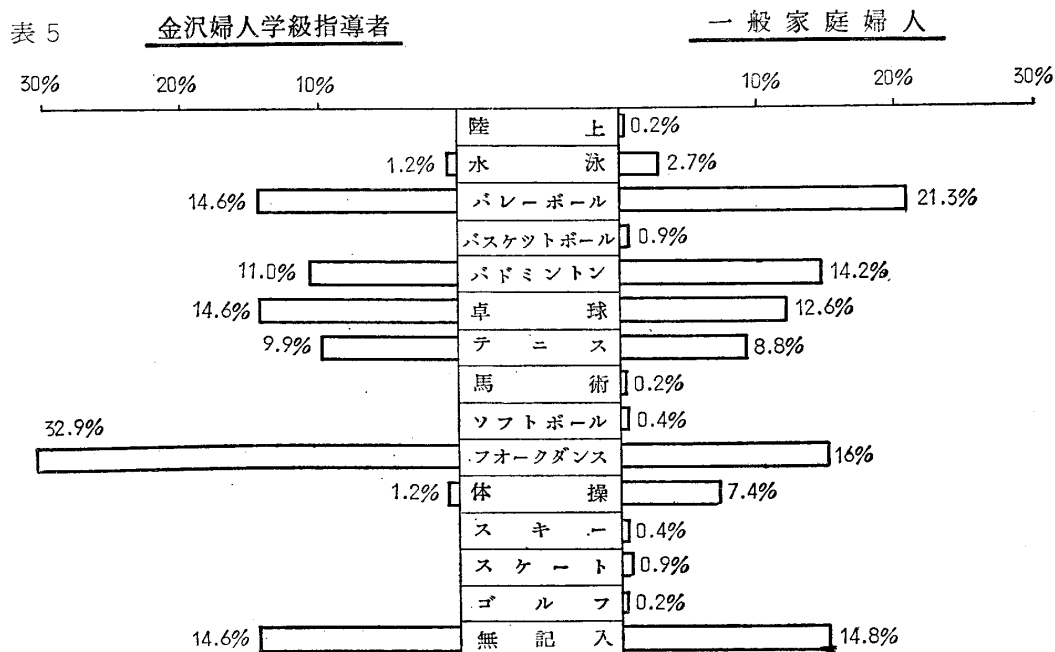
これ等の種目については、テレビ等を通じて、家に居ながらにして楽しめると云う事で、双方共、野球、相撲が上位を占めて居るものと思われる。

プロ・スポーツの発達、マスコミの影響によつて、婦人層が、スポーツを見て楽しむ面にも、多くの種目が好まれてきたと云える。

ii) 行方事が好きな種目について

学級指導者では、卓球、フォークダンス、バレーボール、バスケットボール、バトミントン、フォークダンス、水泳の順であつた。

3) 婦人に一番適して居ると思われるスポーツの種目について



上記について、記述を求めた結果が、この表で、学級指導者においては、フォークダンス、バレーボール、卓球、バドミントンとなり、家庭婦人について見ると、バレーボール、フォークダンス、バトミントン、卓球となり、上位4種目は、順位こそ異なるが、同様の種目が表われて居た。

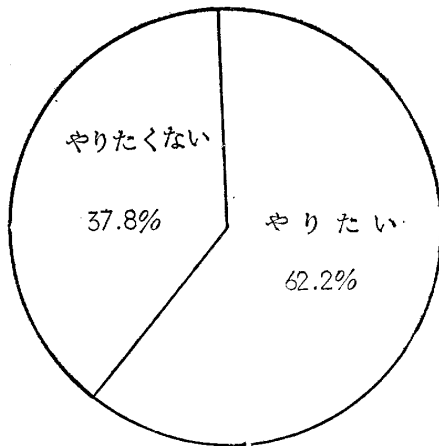
適して居る理由としては、手軽にできるもの、施設、用具、規則等が複雑でないものが、好まれて居る傾向で有り、体力の向上運動不足の補い、運動量の適正、美容上、健康の保持等が、その主な理由となつて居る。

年令的には、バレーボール、フォークダンスは平均全体の婦人達に、卓球、バドミントンには、30才~40才代の人達に多かつた。

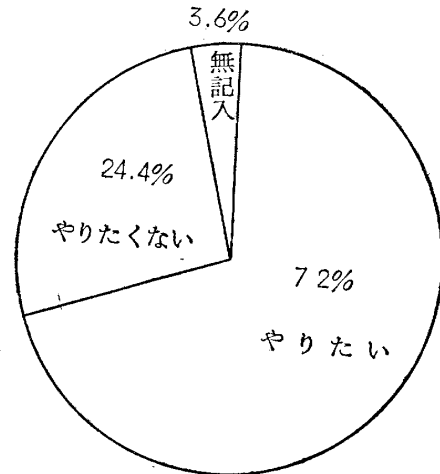
4) あなたは、休日や余暇を利用して何か運動を（レクリエーション的種目を含む）やりたいと思いますか、又、その意欲について

問 4

表6ノ1 N 1



N 2

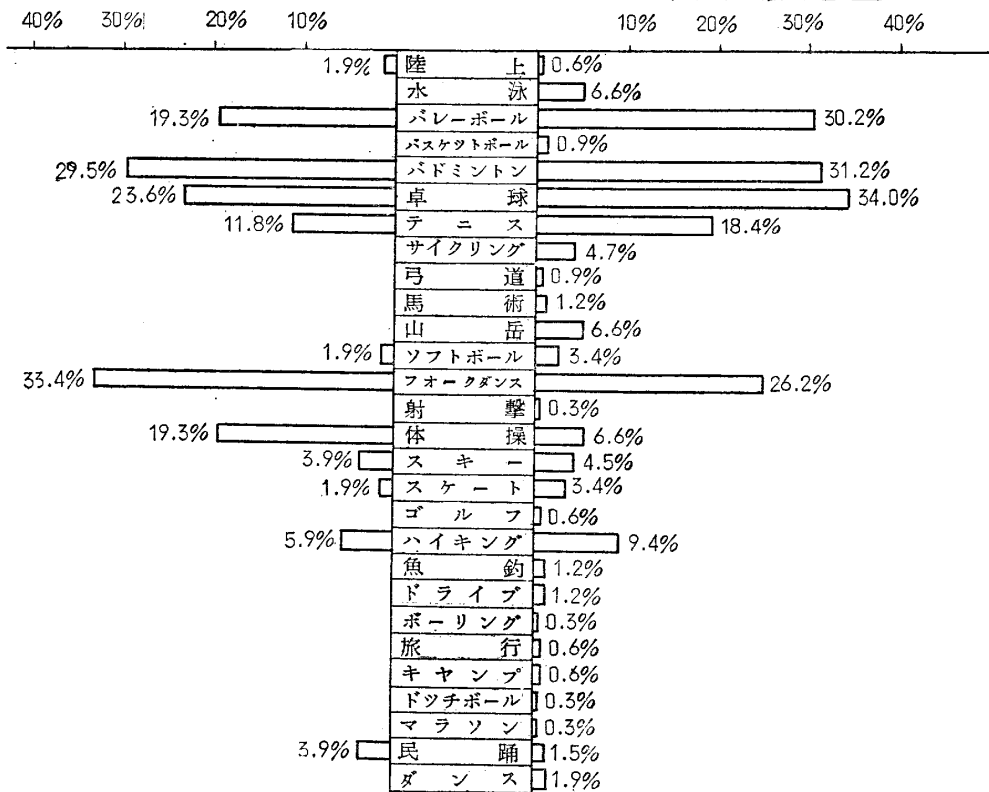


円型グラフに見る如く、やりたいと答えた者が、学級指導者、家庭婦人共に圧倒的な数を示して居り、又、やりたいと回答した者には、その希望種目の3～3について記述を求めた。

問 4 希望種目

表6ノ2 金沢婦人学級指導者

一般家庭婦人



更に、その希望する種目について見ると、学級指導者では、フォークダンス、バトミントン、卓球、バレーボール、体操の順となつて居り、家庭婦人については、卓球、バトミントン、バレーボール、フォークダンス、テニスで、上位5種目について見ると、双方共、大体同様の傾向で有ると云える。

5) あなたは現在スポーツを行つて居るか。(実施状況とその種目について)

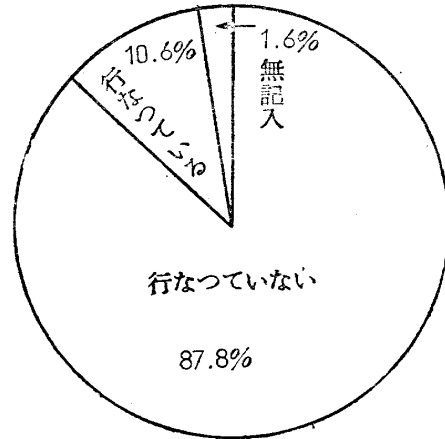
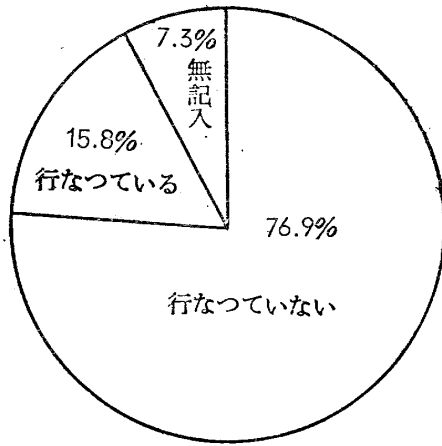
金沢婦人学級指導者

一般家庭婦人

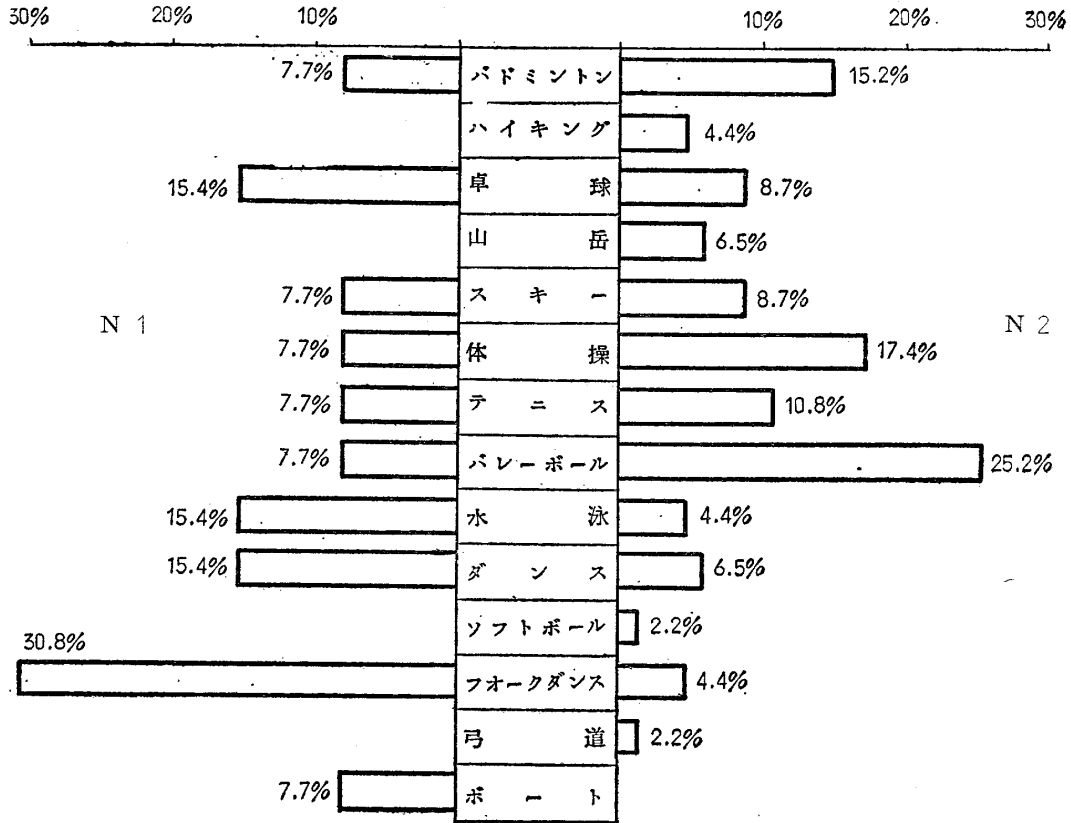
表 7

N 1

N 2



(行なっている種目)



行つて居ると答えた者が円型グラフで見る様に，双方共，10%台の少ない数である。その行つて居る種目については，学級指導者では，フォークダンスが1位を占めて居る。これは，各婦人学級において，講習会やパーティを時折行つて居る現状や，盆踊り等，生活に密接した古くからのリクリエーションが，婦人層のスポーツとして各家庭に滲透して居る事から，当然の結果と云えるのではないのだろうか。次いで，卓球，水泳，ダンスが同位を占めて居り，家庭婦人においては，バレーボール，体操，バトミントン，テニスの順で行われて居る。

行つて居る理由としては，好きだから，体力の向上，気分転換，健康の増進，大会への参加（国体等）家族と共に楽しむため，等を挙げて居り，一方，行つて居ない理由としては，時間がない，が最も多く，機会がない，好きでない，家事育児で多忙，適当なグループがない等である。

6) 前述の1，4，5，の関連について

表 8

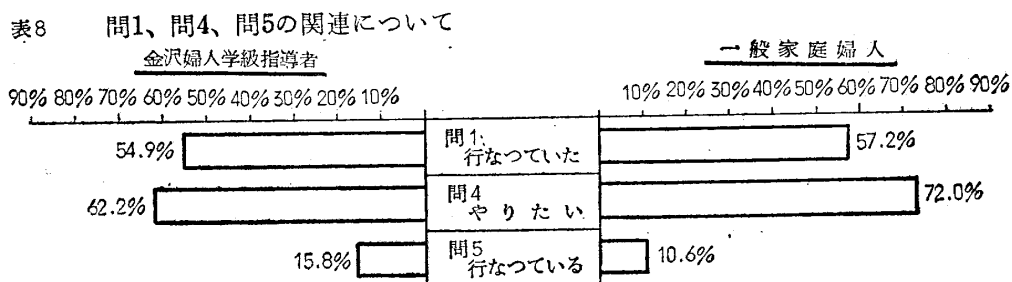


表8の示して居る如く，学級指導者では，経験よりも，運動に対する意欲が，これを，上回つて居る。然し，現状に於いては，少数の者しか行なつて居ない。一方家庭婦人に於いても，同様の傾向を示して居る。行ないたいと云う意欲については，高い数を示しながら，実施者が少ない事が目立つて居る。

これは，スポーツが，生活と遊離して居る事を示し，その様に推察できると思う。この辺に，スポーツ以外に婦人には多くの難しい問題が，有るのでないかと思われる。

V. 総括

各項に表われた種目について見ると，全般的な傾向として，バレーボール，フォークダンス，卓球，バトミントンが上位を占めて居る。これ等は，いわゆる軽スポーツ的な種目で，婦人層が，日常生活に比較的取入れ易いこれ等の種目を愛好すると云う事は，広くスポーツ

を普及発展させるためには、これらのスポーツを第一段階として、大いに一般社会に浸透させる事こそ、婦人体育の成長、又、生活化の第一歩と考えられる。

本調査で感じた事は、一つのスポーツの経験、未経験を通じて見ると、当然の事ではあるが、経験者層は未経験者層よりも運動に対する意欲、実施者が多いと云う結果が出た。

ある年代、主として学生時代迄に、スポーツの経験をなさしめる事が、婦人体育の成長に役立つものと考えられる。

調査にあたり、金沢市婦人学級指導者と、一般家庭婦人を比較検討すべく調査を進めたのであるが、結果的には大体同様の傾向をたどり、特に注目すべき点はなかつた。

学級指導者について各項に高いパーセンテージを示しているフォークダンスは、指導者層の生活が安定しているために余暇があり、加えて機会があるという事と、手軽に行えるという条件とあいまって、行われているものと考えられる。生活の安定つまり家庭内に於ける自由時間、運動の機会、施設等の諸点の問題が解決されてこそ、はじめて婦人スポーツが普及発展するのではないだろうか。

尚、終りに当つて当調査に尽力して下された本学の米永教授ならびに金沢市教育委員会の津田醇一氏に感謝の意を表したい。

(参 考 文 献)

1. 体育学研究法 日本体育学会編
2. 大学体育十年誌 大学体育協議会編纂
3. 体育学研究 (第五卷第一号) 日本体育学会

— 完 —